資 料　２－１

重点審議事業

港湾事業　事後評価

八戸港　八太郎･外港地区防波堤整備事業

令和8年　2月24日
国土交通省　東北地方整備局

1. 事業の目的と概要

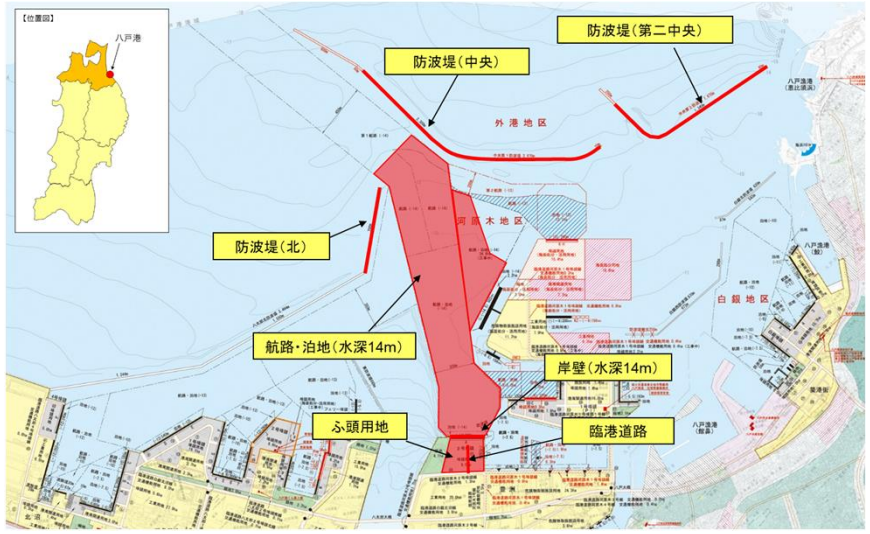
事業完了後5年経過

関連SDGs

事業名	八戸港 八太郎・外港地区防波堤整備事業	事業種別	防波堤
事業の目的	八戸港八太郎・外港地区に防波堤等を整備することにより、港湾利用企業の物流効率化を図るとともに、避泊水域を確保し、荒天時における沖合航行船舶の海難事故の減少を図る。		
事業の概要 港名	八戸港	港格	重要港湾
対象施設	[防波堤] 防波堤(北) 700m 防波堤(中央) 2，320m 防波堤(第二中央) 1，470m [岸壁等] 岸壁(水深14m) 280m 航路・泊地(水深14m) 134ha 臨港道路 195m ふ頭用地 9ha		
事業期間	昭和51年度～令和2年度		
事業費	再評価時(平成29年度)：1,164億円 事後評価(令和 7年度)：1,144億円		
事業の経過	昭和48年度 港湾計画改訂(当該防波堤位置付け) 昭和51年度 事業着手 令和2年度 事業完了		

事後評価
(事業完了後5年経過)

【事業実施位置図】





2. 事業の必要性

事業完了後5年経過

①物流効率化

防波堤の整備により港内静穏度を確保し、安全性の向上・荷役作業の効率化を図る。
大水深岸壁および航路・泊地の整備により船舶の大型化に対応し、物流機能の効率化を図る。

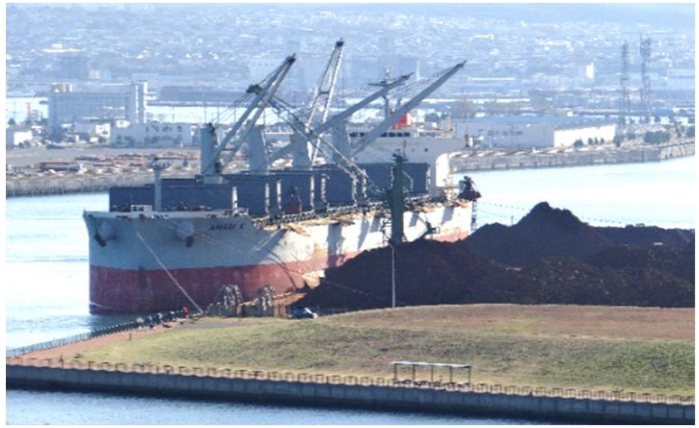
②避泊水域の確保

防波堤の整備により、避泊可能水域を確保し航行船舶の荒天時における海難事故の減少を図る。

①物流効率化



防波堤に打ち寄せる荒波（港内静穏度の確保）

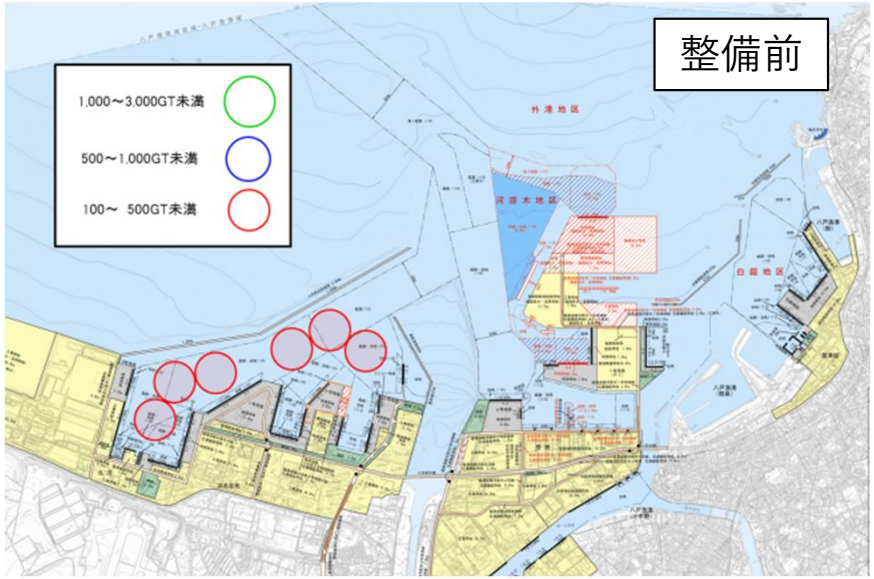


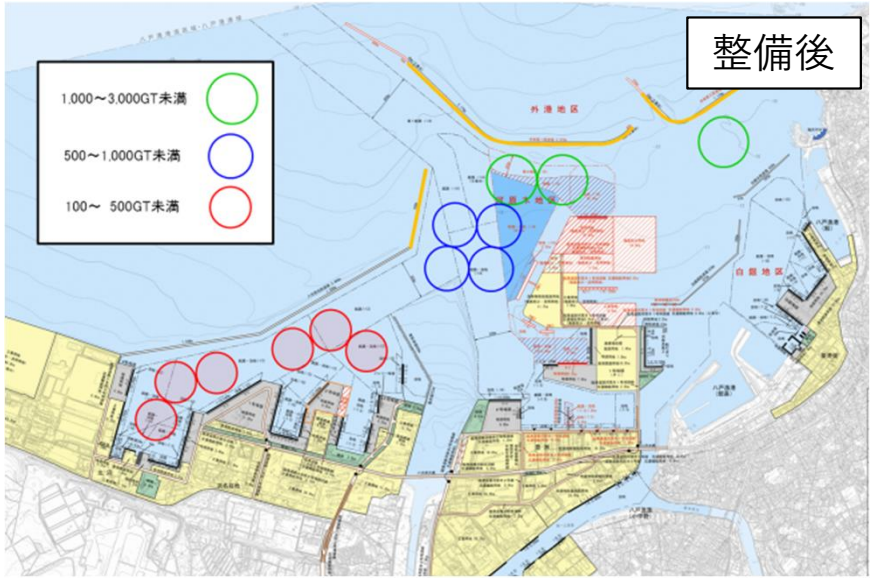
大型バルク貨物船の荷役状況



コンテナ貨物船の荷役状況

②避泊水域の確保





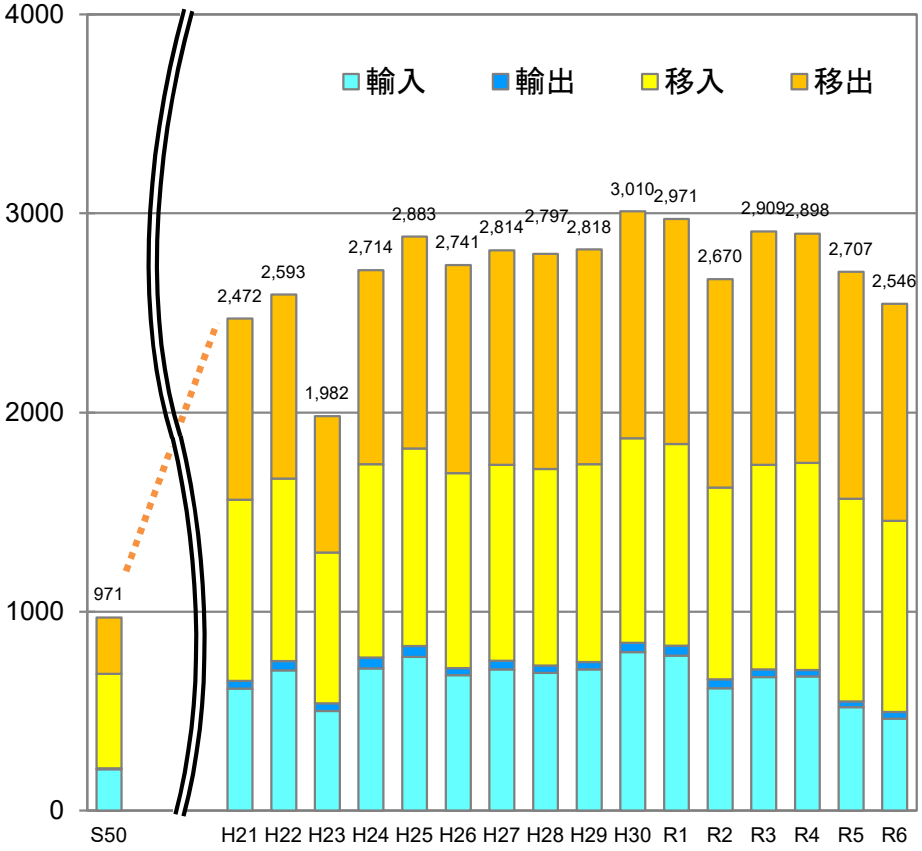
3. 事業効果の発現状況（1）

事業完了後5年経過

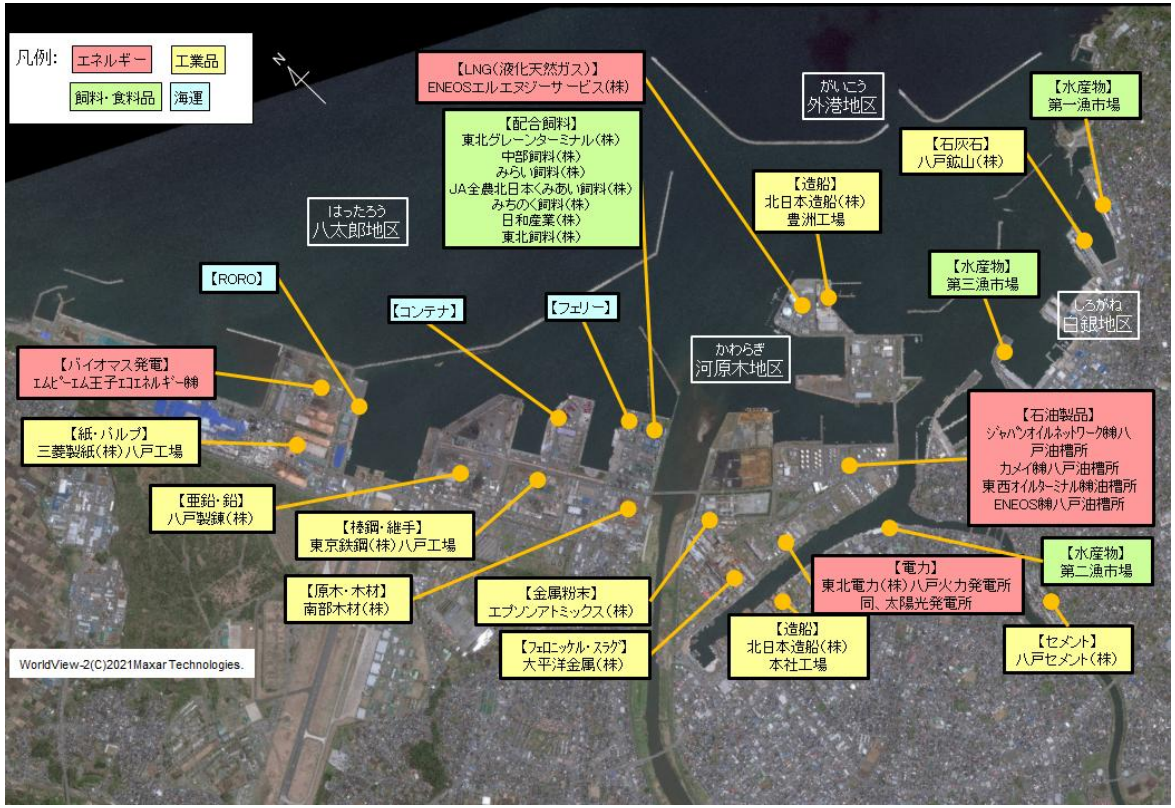
①物流効率化

○防波堤の整備により、港内の静穏度が確保され、荷役作業の安全性向上や効率化が図られている。また、大水深岸壁等の整備により物流の効率化も図られ、取扱貨物量は年間約2,500～3,000万トンを安定して推移。
○外貿コンテナ定期航路や国際フィーダー航路、フェリー・RORO定期航路を有し、地域産業と世界を結ぶ北東北の国際物流拠点として、臨海部に立地するエネルギー関連企業や工業品製造工場、配合飼料メーカーなどの原材料の輸入や製造品等の国内外への安定的な輸送を担い、地域産業の発展に寄与。
○八戸市の令和元年製造品出荷額約5,475億円のうち、臨海部産業の製造品出荷額は約5,136億円と約94%を占める。

八戸港　総取扱貨物量



八戸港の主な荷主・立地企業



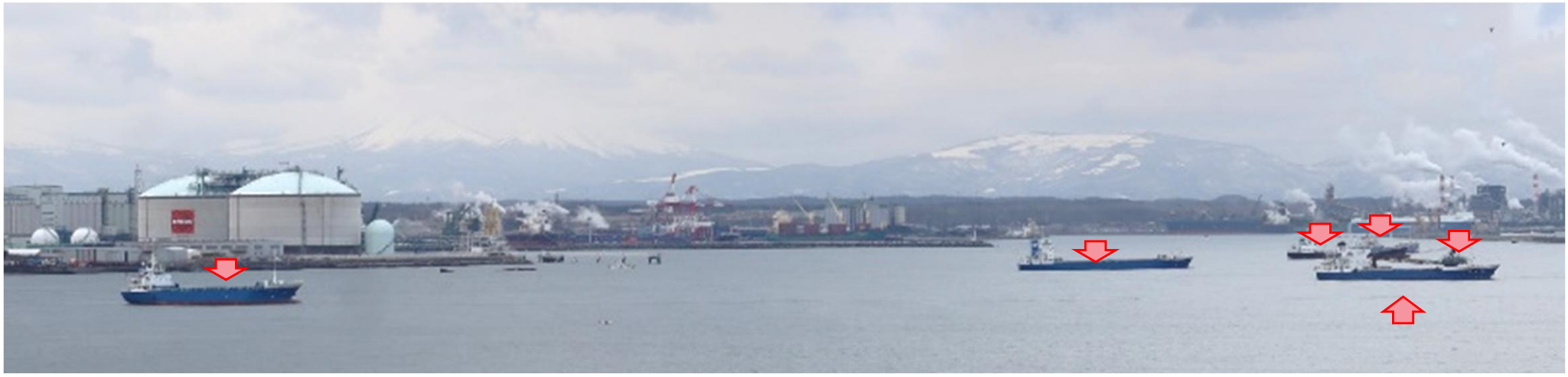
3. 事業効果の発現状況（2）

事業完了後5年経過

②避泊水域の確保

○防波堤の整備により、港内静穏度が向上したことにより、避泊可能水域が6隻から13隻へ拡大し、海難事故の減少に寄与。
○八戸港の避泊隻数は、1回当たり最大で15隻、近年では平均3隻/回の避泊が確認されている。

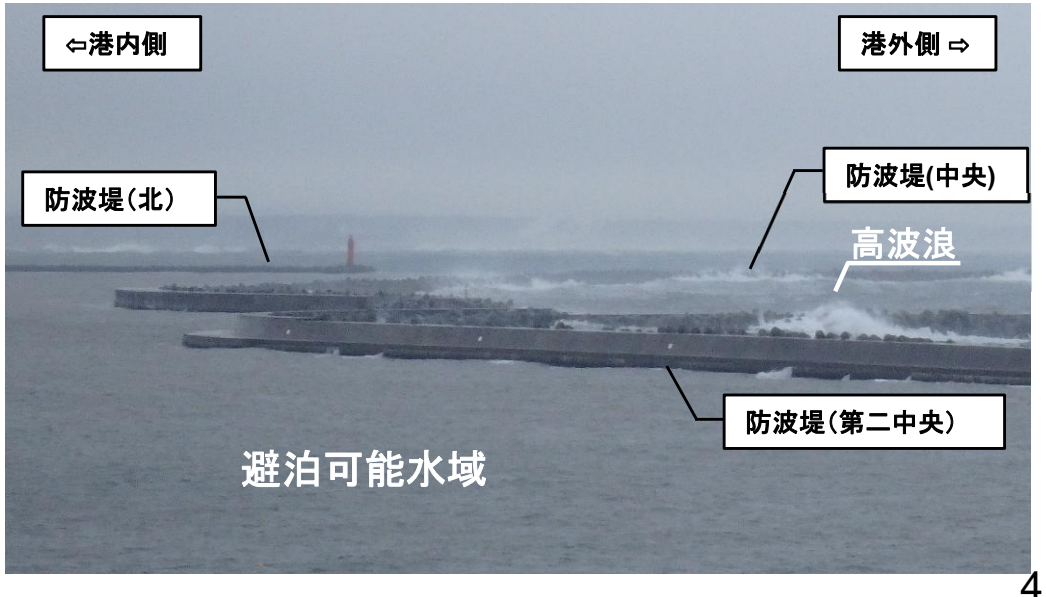
実際の避泊状況（令和６年３月　低気圧接近時）



避泊している船の種類



荒天時の防波堤周辺



4. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

①事業費および便益の変更

項目	前回評価 （平成29年度）	今回評価 （令和7年度）	増△減	備考
事業費	1,164億円	1,144億円	△20億円	実績による
事業期間	S51～H32	S51～R2	-	変更なし
輸送便益 （ニッケル鉱石、石炭）	300万トン	39万トン	△261万トン	貨物動向を踏まえた見直し ※今後、背後企業の新たな事業展開による取扱貨物量の増加が見込まれているが、まだ取扱いはないため、今回評価では令和6年度の取扱貨物実績を基に設定。
輸送便益 （コンテナ貨物）	15,400TEU	7,991TEU	△7,409TEU	
避泊便益 （海難における損失回避）	7隻	7隻	-	変更なし

4. 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化

②単年度便益

項目	前回評価	今回評価	備考
輸送コストの削減(コンテナ)	14.9億円	14.9億円	貨物動向を踏まえた見直し
輸送コストの削減(バルク)	55.4億円	8.7億円	貨物動向を踏まえた見直し
海難損失回避	98.4億円	98.4億円	
残存価値	102.8億円	103.1億円	土地価格の上昇により増加
合計	271.5億円	225.1億円	※便益額は割引前単年度便益

③費用対効果分析結果

項目	前回評価	今回評価	備考
事業費	1,164億円	1,144億円	実績による
事業期間	S51～H32	S51～R2	変更なし
総便益(B)【現在価値化後】	6,580億円	8,780億円	
総費用(C)【現在価値化後】	3,316億円	5,967億円	
B/C	2.0	1.5	

5. 利用者の声

〇防波堤の整備により、港内静穏度が向上し利用しやすくなった。

6. 今後の事後評価及び改善措置の必要性

〇　事業の目的に対する効果を発現しており、今後の事後評価及び改善措置の必要性はない。

7. 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

〇本事業評価において、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法について、見直しを必要とする事項はない。

8．その他の効果（定性的な効果）

①排出ガスの減少（輸送の効率化）
輸送の効率化により、陸上輸送時の排出ガスが削減される
参考：CO2削減量 約2,533トンーC／年、NOX削減量 約25トン／年。

②係留の安全性の向上
港内静穏度が向上することにより、船舶の係留と荷役の安全性が向上する。

③津波による浸水被害の軽減
防波堤の整備により防護効果が向上し、津波による浸水被害の軽減が期待できる